

地域畜産振興部門

熊本県菊池市 菊池地域農業協同組合一貫繁殖部会 強い肉牛産地を目指した 繁殖基盤づくり

—黒毛和種繁殖生産に挑んだゼロからの歩み—



JA 菊池一貫繁殖部会の部会員

菊池地域農業協同組合（JA 菊池）は平成元年に1市6町1村の各農協が合併し、菊池地域を範囲とする広域農協として誕生した。組合員数約1万300人、職員数730人の県内屈指の大型総合農協である。

当地域の肉牛生産は古くから、肥育と素牛生産はそれぞれ総合農協と畜産専門農協がすみ分けを行い、肥育事業は総合農協が、繁殖生産事業は畜産専門農協が指導・出荷・精算業務を行ってきた。このため、県内屈指の肥育牛生産を行うJA 菊池では肉用牛の繁殖生産にはほとんど取り組んでいなかった。

そこで、繁殖生産に興味を持つ農家を育成しグループ化を図るため、平成9年4月に「ABCプラン」を作成し、JA 菊池の繁殖基盤育成に向けた指導方針をまとめた。「ABCプラン」とは、Active（＝活動的な）、Beef Cattle（＝肉牛）の頭文字をとり、活動的な肉牛生産を連想させるとともに、ABC＝入門編との意味合いを持たせた。

その基本的な考え方は、①熊本県酪農肉用牛近代化計画に沿って、肉牛生産基地として発展していくため地域内、経営内一貫体制を構築する、②肥育経営や酪農経営をあらたな和牛素牛生産基盤として育成する、ということにある。換言すれば、肥育や酪農を専門的に経営する有志が「異業種」参入という概念で黒毛和種の繁殖生産に取り組んだといえる。

JA 菊池ではこのプランを拠り所として、まずは量的な拡大を図ることを目指し、繁殖基盤拡充に意欲的な生産者を募った。JA 菊池の取り組みに賛同した5人の農家が集い、平成10年4月に、繁殖牛研究会を立ち上げた。

この研究会がプロジェクトチームとともに、

繁殖基盤構築への取り組みを続ける中、畜産農協の指導のもとで繁殖生産を行ってきた農家も含め、多くの賛同者があられ、平成11年5月には会員30人が集い（飼養頭数736頭）一貫繁殖牛部会が設立された。当時のメンバーは、繁殖農家19戸、肥育農家4戸、酪農家1戸、乳肉複合農家6戸で、1戸当たりの平均飼養頭数は24.5頭で県平均の4.98頭に比較して、約5倍の経営規模でスタートした。活動結果、部会員は86人に増加、繁殖雌牛は急速に増え、これに伴い部会の黒毛和種繁殖牛の飼養頭数も大幅に増加し、3100頭を達成している。

「メシの食える肉用牛繁殖経営」を実践し、地域はもとより県内各地に多頭化経営の考え方を波及した。繁殖牛生産基盤のなかった畜産地帯の中で、黒毛和種の子牛生産という、新たな経営体を創出し、肥育や酪農経営からの参入モデルを確立するとともに、他産業からの新規参入者にも大きな影響を与え産業としての「芽だし」として、地域活性化に貢献した。

部会の設立により、平均年齢48歳、後継者定着率42%の持続性のある生産体制が構築されている。部会設立10年という比較的短期間で、県内屈指の繁殖牛生産組織に成長部会員の子牛市場販売高は約8億円に達しており、地域への経済効果とともに、子牛の安定出荷により、子牛市場の集客にも効果が現れており、市場の活性化に貢献している。

第一次方針の「ABCプラン」に続いて、第2次方針のDEFプラン、第3次方針のGHIプランを示し、部会員にわかりやすく明確に方針を示した点は、地域畜産支援のあり方としても評価されている。

活動のようす



▲木落とし牧野放牧風景。放牧にも取り組み、低コスト生産に努めている



▲「和牛登録の現状と今後」をテーマにした繁殖技術講演会



▲部会員の牛舎を見て回り飼養管理技術を研さんする



▲優良牛を選抜し高品質素牛生産を目指し開催している「優良牛選抜会」



▲繁殖技術講演会。演題は「国から見た繁殖経営の生きる道」



▲JA 菊池の農産物統一ブランド「きくちのまんま」の看板を掲げた放牧場